

朝の打ち合わせ（１１月１７日（水）） 校長より

<研究授業>

- ２学期中（冬休みまであと１か月）に各教科で研究授業を実施しましょう！
- 本時の目標は？（生徒の目線で）
- 育成したい資質・能力は？（本校で育成する６つの資質・能力、学習指導要領における資質・能力の３つの柱）
- 目標を達成するための手立てや工夫は？（評価方法も含む）
- 本時の見所は？

<観点別評価>

- そもそも何のために観点評価を行うのか？
- 中間考査に引き続き、期末考査の問題作成に当たっては、３観点を意識しながら！同じ教科、違う教科で話してみましょう！
- 本日の研究授業や校内研修を活用しましょう。

<リスクマネジメント>

- 進路関係提出書類に当たってはミスのないように。
- 交通事故にくれぐれも注意（衝突事故（加害・被害））。
- 学校備品の不明瞭な処理やＵＳＢ（個人情報）紛失などないように。
- 団体徴収金・学校徴収金の取扱いに注意。

※「木登りの上手として聞こえた男がいた。・・・およそ過ちは下の方まで降りてきて気が緩んだところで起きるものです・・・蹴鞠でもそうだ。難しいところを蹴り上げてほっとした後に落とすのである」（徒然草）

朝の打ち合わせ（１１月１６日（火）） 校長より

<ＳＯＳを見逃さない>

- 生徒への目配り・気配り・心配り。生徒のＳＯＳを見逃さない。
- 生徒のＳＯＳをキャッチし、みんなで共有しましょう。

<世界の共同主観的存在構造>

- 現象は「或ものとして」現れるが、「それ以上の何か」であることから、現象には二重性がある。一方、現象は私に対して現れるが、私としての私に現れているのではなく、私は認識する共同体の一員として現象を見ていることから、認識する主体にも二重性がある。
- このように現象の二重性と認識主体の二重性が対応している。両者を合わせた「四肢的な構造連関」は、私的な主観が外部に実在する客体を、意識内容を媒介にして認識するという近代的認識論に代替される。
- 四肢的な構造連関を踏まえ、私たちは共同主観化された何者かとしてのみ何かを認識するのだとすれば、私たちの共同性・協働性の在り方を変革することによってしか、私たちの認識の抜本的な刷新・転換はなしえない。
- では、遠野ならではの教育を行う私たちの共同性・協働性の在り方とはどうあるべきなのでしょうか？